

学生大使 実施報告書

氏名: 安藤みこと

学部・学科(コース)・学年: 理学部・理学科(生物学コース)

派遣先大学: ガジャマダ大学

派遣期間: 2025/2/27~2025/3/11

Ⅰ 日本語教室での活動内容

平日 10:00~11:30, 13:30~15:00 の一日 2 回計 3 時間の授業であった。金曜日には文化交流会を行い、最終日にはお別れ会をした。山形大生は 16 人で、インドネシア人の学生は回によって参加者が異なったが、15~30人ほどだった。

初回の授業だけやす先生にサポートしてもらい、後は山形大生が主体となって授業を進めた。山大生一人に対して1~3人のインドネシア人に授業をした。担当する学生は授業ごとに同じ回もあれば、違う回もあった。受講生の日本語のレベル別ごとに授業を行い、ひらがな・カタカナ、漢字、会話のグループに別れた。ひらがな・カタカナ、漢字のグループでは読み方や書き順などを教えて、いっしょに発音したり書いたりした。会話のグループでは日本語での自己紹介の練習をしたり、日本の文化や地理などについて話し合うことで日本語についての理解を深めてもらった。私はひらがな・カタカナをメインで教えた。日本人には当たり前であるひらがなの読み方や書き順も、インドネシアの学生にとっては初見なので丁寧に教えることを心がけた。ひらがなだけでも50字あるので、混乱しないように少しずつ教えるようにした。濁点や半濁点、拗音など、日本にいたら当たり前に使っている文字を説明するのが難しかった。インドネシア語には「ひゃ」という発音が存在しないらしく、発音できない学生に教えるのが難しかった。ひらがな・カタカナが読める生徒には、名前のカタカナ表記や日本語の単語を教えた。

文化交流会では、かるた、習字、けん玉、折り紙を行い、インドネシアの学生に日本の文化を紹介した。

お別れ会では、日本に関するクイズ、椅子取りゲーム、だるまさんが転んだ、をして遊んだ。最後には、日本語教室で関わった学生たちからたくさんのお土産をもらった。

2 日本語教室以外での交流活動

授業以外での行動には現地学生が付き添ってくれた。昼ご飯は学食だった。現地学生は断食期間中だったので一緒にご飯を食べることはできないのにもかかわらず、昼ご飯に付き添ってくれた。夜ご飯は毎回外食で、レストランに連れていってもらった。土日の予定は現地学生とアマドさんが決めておいてくれた。かなり過密なスケジュールで疲れが溜まっている学生もいた。

具体的には、ボロブドゥール寺院、宮殿、海、カラオケ、本屋、コーヒー屋、お土産屋、動物園、大学のメロン農園、ダンスショー、バティック作り体験、ショッピングモール、アイス屋、アマドさんの自宅、などに連れて行ってもらった。夕食の後はホテルの一階で集まって雑談、カードゲームなどをした。日本の漫画を持っていき、現地学生が持っていたインドネシアの漫画と交換した。イスラム教について質問した。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私が学生大使でインドネシアを選んだ理由はイスラム教に対する理解を深めるためだ。人口の9割がイスラム教徒であるインドネシアはイスラム教を勉強するのに適していると考えた。実際に、お世話をしてくれた現地人のうち一人以外は全員イスラム教徒であった。現在日本では外国人労働者を多く受け入れており、在日イスラム教徒も増えている。しかし、イスラム教と日本の文化は異なる点も多く、今後の日本ではイスラム教との衝突が起こる可能性がある。私はそれを緩和するためにイスラム教を知る必要があると考えた。

イスラム教の話をするために、まずは現地学生と仲良くなるように努めた。宗教の話はセンシティブな話題だと思ったので、ある程度仲良くなってから話そうと考えた。仲良くなった現地人のうち、宗教や文化に興味があり気軽に話せる人を数人見つけた。

一日5回お祈りをするのは面倒くさくないのか聞いたところ、昔から習慣的にしているので面倒くさくないらしい。さらには、お祈りするとリラックスした気分になり、嫌なことがある日でもやる気が湧いてくるという。また、話をしてくれた彼はイスラム教の恩恵を他の人よりも感じることができているらしく、自分はラッキーな人間であると話していた。彼らにとって、イスラム教は自分が生まれたときから側に存在し、あるのが当たり前のものらしい。

現地学生で一人だけヒジャブをつけていないイスラム教徒の女性がいた。ヒジャブをつけるかどうかは自分の意志で決めることなので必須ではないらしい。数年前まではヒジャブをつけていない女性は全くなかったらしいが、近年ではファッションとしてヒジャブを外すイスラム教徒も現れているらしい。また、お酒を飲んだり、断食期間中に飲食をしているイスラム教徒も少数だが見られた。かなり気温が暑かったので、体調が悪くなりそうな場合は飲食しても大丈夫らしい。

今回お世話になった現地人のほとんどはジャワ民族であり、普段はインドネシア語ではなくジャワ語で会話していた。お土産でワヤン・クリツというジャワ島の伝統的な影人形をもらった。ワヤン・クリツはヒンドゥー教の神話をもとに作られている。また、仏教のボロブドゥール寺院にも連れて行ってもらい、そのお土産ももらった。このように、イスラム教徒の彼らから他宗教に関する文化を教えてもらった。このことから、他の地域のイスラム教徒は分からないが、インドネシアのジャワ民族である彼らに関してはイスラム教以外の宗教もリスペクトしているのではないかと思った。現地人のうち一人、イスラム教をやめて？仏教に改宗した人がいたが、他のイスラム教徒に仲間はずれにされたり差別されたりはしていなかった。

今回の派遣を通して、全く触れたことがなかったイスラム教の文化に触れることができ、さらにイスラム教徒の友達も作ることができたので、イスラム教を知るという点での達成度は100%だと思う。しかし、睡眠不足などで体調が万全ではなく、時間をロスしてしまったため全体での活動達成度は80%とする。

4 プログラムに参加した感想

本当に参加して良かったと思う。

飛行機で現地に到着した時は、今すぐに日本に帰りたいと思った。周りの日本人学生も同じ気持ちの人が多かったと思う。しかし、空港からの電車に乗ってからは、日本と違う景色に感動してそのような気持ちはすぐになくなった。お世話をしてくれた現地人もとても優しくて気さくな人達だったので、すぐ

【学生大使 実施報告書】

に仲良くなれた。最終日には、お別れがさみしくなり空港で泣いてしまった。

2週間の間、同じメンバーの現地人とつきっきりで行動するという体験は学生大使でしかできないと思う。派遣期間は2週間だけだったが、現地人と過ごした時間はかなり濃密だった。

他の山大生にも、学生大使を推薦していきたいと思った。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の派遣を通して、国際交流の重要性に改めて気がつくことができた。また、英語の重要性に気がついた。ある程度日本語を話すことができる現地人とは仲良くなれたが、話せない現地人とはあまりコミュニケーションを取ることができなかった。またいつか外国に行くかもしれないので、英語や現地の言葉を事前に勉強しておくことが必要だと思った。現地で友だちになりSNSを交換した人たちとは継続してコミュニケーションを取り続けたい。また、外国人に対して日本語を教えることについても興味が湧いてきたので、日本語教師について調べてみようと思った。

そして、日本の文化や歴史をもう少し勉強する必要があると思った。今までは日常生活で受動的に日本の文化を享受しているだけだったが、これからは能動的に日本の文化を接種していきたいと思った。

6 現地での活動写真

写真1

文化交流会で一緒に折り紙を折った



写真2

村にあるアマドさん宅で食事を振る舞ってもらった



写真 3

夕食後ホテルの一階で、アマドさん、ラマンさん（アマドさんの友人）、ハキさん（学生大使 OB）とインドネシアのカードゲームで遊んだ



写真 4

ジャワ島の伝統芸能、Wayang Wong を見た

